



おひさま

八代市教育サポートセンター
子ども支援相談室便り
令和4年2学期スタート号
文責 江藤紀子




責任感のある子供



「自分の生活、学習、役割にきちんと責任をもてる子供にしたい。」という願いを多くの親が抱いていると思います。

きちんと責任を果たすことができ、人から信頼されるようになることは、嬉しいことです。信頼されるとエネルギーがわき上がり、自信をもって生き生きと活動できるようになります。

また、社会に出れば、どうしても責任を求められるようになります。小さい頃から責任感のある子供に育てることは、大切なことだと思います。責任感は、どのようにして身に付けさせるのでしょうか。 

①それは、親の仕事か子供の仕事か分けて考える

朝起きるのは、子供の仕事です。学校の準備も子供の仕事です。

「起きないから」と起こし続けるヘルプをすれば、起きることのできない子供のままです。「忘れ物をするから」と学校の準備をしてあげるヘルプをしていたら、ずっと準備ができないままです。自分の仕事に責任が取れないまま育っていくことになります。

できるようになるまでは、ただ「やりなさい」というのではなく、やりたくなる環境をつくってあげること。例え失敗しても、せっかくやろうとしている子供の邪魔をしないことです。親を頼ってきたときには、自分でできるようにやり方を教えて、親がやってしまわないように気を付ける必要があります。


②原因と結果から考えるように子供をサポートする

「子供に朝起きを任せたら、起きることができずに遅刻をしてしまった。」さて、どうしますか。

「起こしてくれなかったから遅刻した！」と子供が言うかもしれません。

まずは、これは自分の仕事だと教えてあげなければなりません。

そして、「遅刻した」という「結果」をもとに「朝起きられなかった」「原因」を自分なりに考えさせることが大切です。就寝の時間や目覚ましのかけ方、目覚まし器が鳴った時にどう動くかなど、自分で工夫して、朝起きのかたを改善する必要があります。

子供が考えた起きられる環境づくりをサポートし、自分で起きられるように応援して、うまくいったら、しっかり認めあげましょう。 



勇気をもって、子供に「困った」を体験させよう

子供に「困った」体験をさせるのはかわいそうだと今の幸せだけを追求していると、将来の子供の幸せにはつながりません。

親が守ってあげることができる子供のうちは、失敗しても心を癒してあげることができるし、サポートしてあげることができます。

未来の幸せのために、「困った」をたくさん経験し、「結果」から「原因」を考え、サポートしてもらってきた子供は、大人になっても「困った」にストレスなく対応していけると思います。

大切な子供だからこそ、「困った」を経験させる勇気が必要だと思います。



スマホから、なまえやかおをしられずに、なやみの
そうだんができます。

右上のQRコードをよみとってそうだんしてください。

※すぐにメールのへんしんができないときがあります。



子育て相談（不登校など）

●相談方法

・電話 0965-33-6145（相談室直通）

・メール kodomo-sien@yatsushiro.jp

・面談 やつしろ子ども支援相談室

（八代市役所4階教育サポートセンター内）

●相談時間 月～金曜日 午前9時～午後2時



※相談無料 匿名でも相談できます

